

【7月6日（月）放送朝礼】

全校のみなさん、おはようございます。

7月最初の朝礼です。

みなさんも、ニュースなどで知っていると思いますが、経済活動が再開され、県をまたぐ移動ができるようになってから二週間が過ぎた今、東京都を中心に新型コロナウイルスの感染が拡大しています。東京都では、1日の新規感染者が100人を超える日が続いています。また、近くの県などにも少しずつ感染が広がっています。

私たちは、手洗い、場に応じたマスク、ソーシャルディスタンスという、「新しい生活様式での学校生活」に慣れて来たところですが、引き続き気を引き締めて生活をしていかなければなりませんね。

週末は熊本県で、記録的な大雨により数か所で川の氾濫が起き、とても大きな被害が出ています。鉄骨でできた赤い大きな橋が、水流の強さに耐え切れず、壊れて、濁流にのみこまれていく映像を皆さんも見たかもしれません。自然の恐ろしさを感じ、自然の猛威の前では人間は何もできないと思い知らされるような映像が次々とテレビで流れています。

ニュースの中で、「命を守る行動を」という言葉が何度も流れますが、いざという時に「命を守る行動」をとれる人ととれない人。そこにどんな違いがあるのかを、先生はいろいろ調べていきたいと思いました。

自宅の2階に避難をしていた70代の男性は、首のあたりまで水が来た時に「このまま家にいたら、死んでしまう」と思ったそうです。そして取った行動は、水の中にもぐって窓から建物の外に出るというものでした。その機転の利いた判断で、何とか命は失わずに済んだそうです。

もしも自分だったら、そんな判断ができるだろうか。校長先生には自信がありません。

私たちが住んでいる愛西市も、近くに大きな川が流れていたり、30年以内に巨大地震が起こる可能性が高いと言われている地域です。いざという時、「命を守る行動がとれる」よう、学校での避難訓練も大切ですし、家の人や先生などの、大人の指示をしっかりと聞くことももちろん大切ですが、「自分の命を自分で守るためにどうしたらよいか」を各自で考えていかなければなりません。小学生の皆さんにとって、難しい課題だと思いますが、例えば廊下を走ると人とぶつかるから危険、石を投げたり蹴ったりしたら物を傷つけたり、人にけがをさせたりして危険など、毎日の生活の中にその課題の基本になる行動様式のヒントはあると思います。先を読んで危険なことを避ける力が、命を守る行動に繋がると思います。

雨が多い1週間になりそうです。教室で静かに過ごせるよう、一人一人落ち着いて生活しましょう。

校長先生のお話を終わります。